

第87回 学術講演会 (ハイブリッド開催)

開催方法 会場開催・Web開催 (リアル配信)

開催日時 令和6年12月5日 (木) 18:00~20:10

開催会場 名古屋マリオットアソシアホテル 16階『タワーズボールルーム』

高血圧診療におけるPHRと医療データの活用について

代表世話人 労働者健康安全機構 大阪労災病院 総長 **樂木宏実 先生**

座長 佐賀大学 医学部長 **野出孝一 先生**

講演 I.

「Personal Health Record (PHR) がヘルスケア新時代を拓く

～ NO PHR, NO ヘルスケア～

国際医療福祉大学大学院医学研究科循環器内科学 教授

岸拓弥 先生

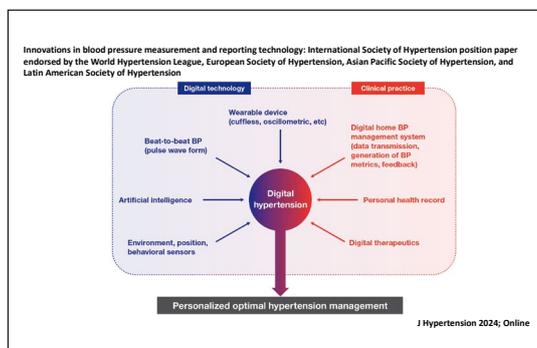


講演 II.

「医療データを活用した新時代の『時空間ネットワーク高血圧学』」

自治医科大学内科学講座循環器内科学部門 教授
自治医科大学附属病院循環器センター センター長
日本高血圧学会 理事長

苅尾七臣 先生



後援 / **愛知県医師会**

この講演会は、日本医師会生涯教育講座2単位が取得できます。

カリキュラムコード：9 (医療情報・1単位)、74 (高血圧症・1単位)

Web視聴での単位付与条件：当日リアル配信中ログイン、ログアウト時間により、講演開始前から終了までの視聴確認出来た方のみ付与させていただきます。

講演I：

「Personal Health Record(PHR)が ヘルスケア新時代を拓く

～NO PHR, NO ヘルスケア～

国際医療福祉大学大学院医学研究科循環器内科学 教授

岸 拓 弥 先 生



講演II：

「医療データを活用した新時代の 『時空間ネットワーク高血圧学』

自治医科大学内科学講座循環器内科学部門 教授
自治医科大学附属病院循環器センター センター長
日本高血圧学会 理事長

荻 尾 七 臣 先 生



プロフィール

1997年 九州大学医学部 卒業
1997年 九州大学医学部附属病院 研修医
1999年 九州大学大学院医学研究院循環器内科学 入学
2002年 九州大学大学院医学研究院循環器内科学 早期卒業(学位取得)
2002年 九州大学医学部附属病院循環器内科 医員
2003年 麻生飯塚病院循環器内科 医長
2005年 九州大学医学部附属病院循環器内科 医員
2010年 九州大学大学院医学研究院先端心血管治療学講座 助教
2011年 九州大学大学院医学研究院先端心血管治療学講座 講師
2014年 九州大学大学院医学研究院先端心血管治療学講座 准教授
2015年 九州大学循環器病未来医療研究センター 部門長
2019年 国際医療福祉大学大学院医学研究科循環器内科学・福岡薬学部 教授
現在に至る

所属学会：

日本循環器学会(情報広報部会長)、日本心臓病学会(評議員)、
日本高血圧学会(理事)、日本心不全学会(評議員)、日本血管不全学会(理事)、
日本循環制御医学会(理事)、日本糖尿病学会、
日本心血管インターベンション治療学会、日本不整脈心電学会、
日本心臓リハビリテーション学会、日本心血管内分泌代謝学会(評議員)、
日本血管作動物質学会(評議員)、日本緩和医療学会、日本腎臓学会、
日本内分泌学会、日本性差医学会(評議員)、日本抗加齢医学会(評議員)、
日本生理学会、日本臨床生理学会(評議員)、日本薬理学会、日本臨床薬理学会
American Heart Association (Fellow)、American College of Cardiology、
European Society of Cardiology (Fellow)
American Physiological Society
日本循環器協会(理事)、日本心血管協会(評議員)

1987年 自治医科大学卒業
1996年 自治医科大学循環器内科助手
1998年 コーネル大学循環器センター/
ロックフェラー大学・Guest Investigator 留学
2000年 自治医科大学循環器内科講師
2005年 コロンビア大学医学部・客員教授
2005年 自治医科大学内科学講座・COE/循環器内科学教授
2009年～自治医科大学内科学講座循環器内科学教授・循環器内科科長(現職)
2014年 ロンドン大学循環器病科学研究所・客員教授
2016年 上海交通大学医学院・客員教授(中国上海)
2017年 国家心血管病センター/
中国医学科学院阜外医院(中国北京)・主幹教授
2018年～自治医科大学附属病院循環器センター・センター長(現職)

所属学会：

日本高血圧学会副理事長、国際高血圧学会理事、日本循環器学会評議員、
アメリカ心臓病学会フェロー、ヨーロッパ心臓病学会フェロー、
HOPE ASIA Network(循環器病予防アジアネットワーク)理事長
日本高血圧学会高血圧治療ガイドライン、ヨーロッパ高血圧学会家庭血圧
ガイドライン、ヨーロッパ高血圧学会ABPMガイドラインの作成にかかわる
日本高血圧学会誌 Hypertension Research (IF=5.525)編集長、
Current Hypertension Review 編集長、Hypertension、Am J Hypertens、
J Clin Hypertens、など15国際学術誌の編集委員を務め、英語論文は
1000編を超える。著書 *Essential manual of 24-hour blood pressure
management from morning to nocturnal hypertension*, Wiley-Blackwell,
London, pp.1-374, 2022

Personal Health Record (PHR) が ヘルスケア新時代を拓く ～NO PHR, NO ヘルスケア～

国際医療福祉大学大学院医学研究科循環器内科学 教授

岸 拓 弥

情報技術の飛躍的進歩により、Personal Health Record (PHR) の実用化が急速に進んでいます。個人の健康や身体の情報記録した医療データを意味する PHR を活用することで、生涯にわたって個人の健康・医療等に関するデータを管理し、本人の意思のもと活用することができます。例えば、自分の健康状態に関するデータを管理・閲覧することや、健康状態のデータに基づいた推奨を受け取ること、さらにはかかりつけ医以外の医療機関や自治体など第三者に提供する機能を医師ではなく一般市民が利用できることとなります。そもそも医療の目的は何か？誰の何をどうしたいのか？医療情報は誰のものなのか？の視点で考えると、PHR の有用性は自明です。PHR の導入により、継続的な生体情報のモニタリングと適時の介入も可能となり、患者の自己管理能力が向上するとともに、医療機関間のシームレスな情報共有が実現し、ビッグデータ解析による個別化医療の促進や遠隔医療の効率化、さらに人工知能技術との融合により予防医学の新たな地平が拓かれる可能性があります。つまり、PHR は単なる情報管理ツールを超え、目指すべき患者中心の医療を実現する基盤となります。特に、脳心血管病の最大の危険因子

であり国内で 4300 万人が罹患しているとされるも治療・管理状況が不十分である高血圧を中心として、糖尿病や脂質異常症など生活習慣病への展開が見込まれます。一方で、プライバシー保護と情報セキュリティの確保という重要な課題にも注視しなくてはなりません。

PHR がなくては、society5.0 時代の「真の」ヘルスケアはありえません。まさに「NO PHR, NO ヘルスケア」です。本講演では、PHR システムの最新技術動向を概観し、日本高血圧学会や日本高血圧協会が主導する高血圧管理における PHR の具体的活用事例を紹介して、PHR の活用が高血圧を中心とした生活習慣病の管理にもたらす利点と、PHR 導入に伴う医療システムの変革と国民の well-being 向上の可能性について論じます。

医療データを活用した新時代の 「時空間ネットワーク高血圧学」

自治医科大学内科学講座循環器内科学部門 教授
自治医科大学附属病院循環器センター センター長
日本高血圧学会 理事長

荻 尾 七 臣

『時空間ネットワーク高血圧学』は、高血圧に関わる多様な情報を時空間でつなげる

『時空間ネットワーク高血圧学』は、高血圧に関わる多様な情報を時空間でつなげるデータサイエンスである。ヒトの臓器の状態と体外の周辺環境のマルチ情報の変動を、各時相で血圧変動との連関として、時系列に統合分析することで、疾患の発症を予見し、効果的な個別最適化治療を指向する学術研究領域である。端的に言うと、マルチ環境・生体情報を「血圧の時系列変化と生体分布」につなげる学問で、それはデジタル技術の目覚ましい発展により可能となる、digital hypertension 研究でもある。近年、多くのデジタル情報が爆発的に発生している。これらの情報をどのようにつなげて、付加価値のある新しい臨床的指標を創出し、個別高血圧診療に活かせるか、期待は大きい。

日本高血圧学会は、「良い血圧で健やか 100 年人生」をスローガンとした「みらい医療計画」を実施している。減塩に関する厚労省事業や、デジタル技術を活用した高血圧予防指針のAMED研究開発など行政と連携した学術研究や、新規血圧モニタリングやビックデータ、人工知能などを用いた digital hypertension、onco-hypertension、若年高血圧など新学術領域

の研究、また地域モデルタウン事業など幅広い学会活動は大きな成果を出しつつある。しかし、現実には降圧治療中の患者の約半数の血圧レベルはコントロールされていない。2025年には新しい日本高血圧学会・高血圧治療管理ガイドライン JSH2025 が発表される。この最新ガイドラインを基に、ヘルスケアから医療まで、社会と個人の生体・医療データと家庭血圧とを連結し、個人レベルでの徹底した降圧に活かす実装医学が重要となる。改めて、減塩や運動をはじめとする生活習慣の改善、新しい降圧薬、さらに腎デナベーションなどの治療や、早朝血圧を評価指標とするエビデンス構築など、早朝高血圧の抑制を図るために、日本高血圧学会として様々な提言を行い、全国地域の高血圧制圧活動の実装支援を行ってゆきたい。

本講演会では、日本高血圧学会の活動を紹介し、様々な医療データが連結活用可能となるデジタル時代の新しい高血圧診療を展望したい。

<MEMO>

A series of horizontal dashed lines for writing.

第87回学術講演会

ご視聴方法

How to watch

ID **mw**

PASSWORD **1205**

- ◆インターネットを介して講演が配信されますので、インターネットが使用できるPCまたはスマートフォンをご用意ください。
- ◆携帯電話回線のご使用は電波状況や回線速度などの影響を受け、動画や音声途切れる可能性がありますことを、あらかじめご了承ください。
- ◆長時間のご視聴はブラウザの負荷により映像と音声にずれが生じる可能性があります。違和感を感じた場合は画面更新、または開き直しをお試しください。

01

視聴ページへのアクセス

ブラウザを起動し画面上部のアドレスバーにURLを入力してください。

右の画像からもアクセスしていただけます。

※GoogleやYahoo!の検索欄からは視聴ページは表示されませんのでご注意ください。



※ジー ジェイ エム (ジェイとアイの入力間違いにご注意ください。)

02

Web講演会の本番視聴

※開始1時間前よりボタンは有効になります。

ログイン画面

①ボタンが有効になりましたら、「視聴する」のボタンを押してください。



②ログイン画面に切り替わりましたらIDとパスワードを入力してください。



③参加登録画面で必要事項を入力し、「登録」ボタンを押すと視聴画面に切り替わります。

※日本医師会生涯教育単位が必要な方は「性別」「都道府県医師会名」「郡市区医師会名」の入力が必要となります。

※当日は実際のページと異なる場合がございますのでご了承ください。

▼視聴推奨環境

- Windows OS: Windows 11, Windows 10
ブラウザ: Google Chrome 最新版, Microsoft Edge 最新版
- Mac OS: macOS 最新版
ブラウザ: Safari 最新版

- iPad/iPhone OS: iOS 14・iPadOS 14以降
ブラウザ: Safari 最新版
- Android OS: Android 11以降
ブラウザ: Google Chrome 最新版
- その他設定 Cookie, JavaScriptを有効にしてください。

※視聴環境を満たしていても、端末・回線状況によっては正常に視聴ができない場合がございます。
※OS・ブラウザの予期せぬアップデートにより視聴に影響が出る場合もございます。

事前視聴確認や当日の視聴に関して、技術的なトラブルやご不明な点などがございましたら、こちらまでご連絡ください。



木村情報技術株式会社
サポート窓口



0952-97-9167



<https://gjm.pw/form>

平日9:00~18:00 (土・日・祝日を除く) ※本番当日は会終了までサポートします